

〔天内問答〕一御折はいづれの時に可參候哉の事

御折は五六獻目より參候、但獻數も參候はん時は、はやくも參候、時義によるべし、二合參候時は、上座に並て參候、精進といをと參り候、精進を上にも可被置候、又一合も參候、事勿論の義に候、後々は前に參たるに被取替候、貴人へ御盃參候度毎に、御折は可被參候、亭主の前へ盃參候時は、いかにて候、其も又事によるべし、

〔三内口決〕一折敷食籠等之事

酒宴ノ時、折ノ物二合三合一度ニ出之候、數少之時ハ、一合宛モ出候事、又常之儀歟、

凡一獻之時、人々前之物之外ニ押物一充有之物候、然間折物ハ座上へハ、不進候、獻ニ不向之人々用候、雖然一獻省略之時者、爲押物之代、座上へ進候也、本式之儀能於分別、可有執沙汰事候哉、

〔看聞日記〕永享四年五月十六日、自室町殿饅頭折一合、茶子折色々六合、有臺繪色殊勝也、西雲被執進御返事申、握翫無極、

〔天保十三年物價書上〕下木具類引下、直段取調書上

椀唐檜

一 笹折七寸櫻の皮

當五月引下、直段壹ツニ付三拾文之處

一同 斷八寸櫻の皮

當時壹ツニ付三拾四文之處

一同 斷七寸櫻の皮

當時壹ツニ付貳拾貳文

一同 斷八寸櫻の皮

當時壹ツニ付貳拾七文、〇中略

右引下、直段銘々見勢先、江張出し置候様申達仕度候、

寅 八月廿六日

諸色之内、木具類掛、牛込馬場下横町

名主 小兵衛人外略

物相

〔下學集〕下器財物相モノノ之器ノ飯分量